

住宅 防火

いのちを守る10のポイント

4つの習慣



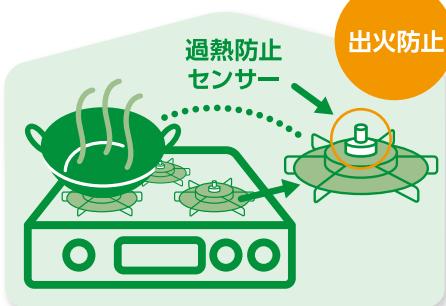
1 寝たばこは絶対にしない、させない



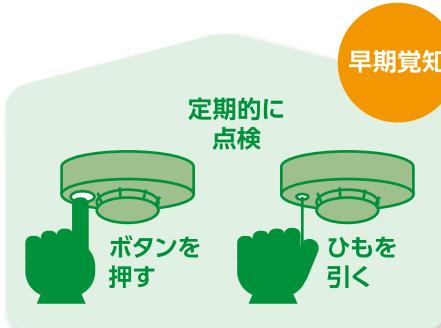
3 こんろを使うときは火のそばを離れない

4 コンセントはほこりを清掃し、不必要的プラグは抜く

6つの対策



1 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する



2 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する



3 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防炎品を使用する



4 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく



5 お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく



6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

住宅防火関係（映像資料）

忘れていませんか？火災から命を守る住宅用火災警報器の点検・交換

本編（約10分）（日本語字幕なし）

[視聴](#) ▶

本編（約10分）（日本語字幕あり）

[視聴](#) ▶

ダイジェスト編（約4分）（日本語字幕なし）

[視聴](#) ▶

ダイジェスト編（約4分）（日本語字幕あり）

[視聴](#) ▶

スポット広告編（約30秒）（日本語字幕なし）

[視聴](#) ▶

スポット広告編（約30秒）（日本語字幕あり）

[視聴](#) ▶

リーフレット

[ダウンロード](#) ▶

住宅防火関係（映像資料）

たしかめくんとボウサイちゃんのこんろ火災防止大作戦！

住宅防火 いのちを守る10のポイント

忘れていませんか？火災から命を守る住宅用火災警報器の点検・交換

地震火災～あなたの命を守るために出来る事～

たばこ火災を防ぐワン！ポイント！！

火災予防広報用映像

「地震火災から命を守るために」

『暖房器具火災の真実』 - 高齢者の生活実態を踏まえた火災検証実験-

『暖房器具火災の真実』 - 高齢者の生活実態を踏まえた火災検証実験- (8分ビデオ) テキスト版

『暖房器具火災の真実』 - 高齢者の生活実態を踏まえた火災検証実験- (4分ビデオ) テキスト版

厨房における火災予防の広報用映像

住宅用火災警報器の広報用映像

小さな火種の知られざる恐怖～たばこ火災を防ぐために～

灯油等の危険物による火災の実態～燃焼機器火災を未

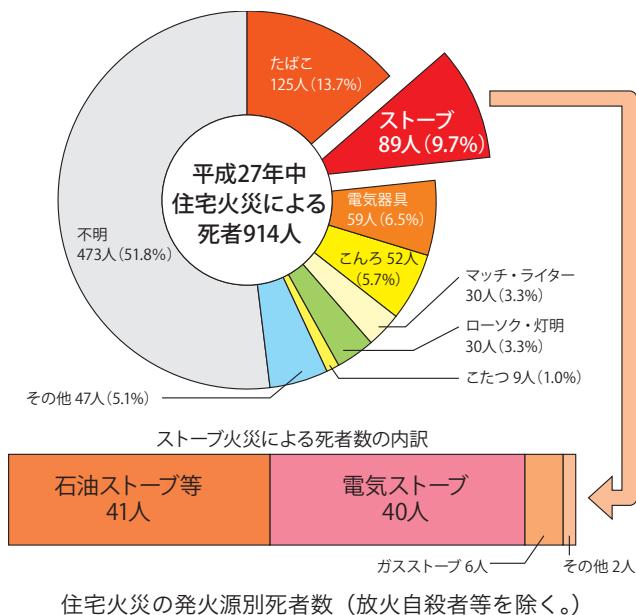


ストーブの安全な取扱いについて

予防課

12月に入り、本格的に寒くなる季節を控え、ストーブを使う御家庭も多いと思います。

ストーブを使用するのは、11月頃から4月頃までと1年のうちで限られていますが、ストーブが原因となる建物火災は、平成27年中に全国で1,208件発生しており、出火原因の中でも高い順位（4位）となっています。



また、東京都の調査では電気ストーブについて、危険との認識が低いと調査結果が出ていますが、平成27年中のストーブが原因の死者数は全国でも上の表のようになっており、電気・石油等の違いにかかわらずストーブを使用する場合には注意が必要です。

1 使用をするときの注意事項

- (1) ストーブの近くに紙、衣類など燃えやすいものを置かないようにしましょう。
- (2) 就寝時にストーブを使用するのは避けましょう。
- (3) ストーブの周囲や上方に洗濯物を干さないようにしましょう。
- (4) カーテン等がストーブに接触しないように、離して使用しましょう。

(5) ストーブの近くでヘアスプレー等の使用、放置はやめましょう。

2 使用方法

- (1) 取扱説明書をよく読んで、正しい方法で使用しましょう。
- (2) 石油ストーブに灯油を給油するときは、必ず火を消してから行いましょう。
- (3) カートリッジタンク式のものは、給油後、タンクのふたを確実に締めましょう。
- (4) 電気ストーブやファンヒーターを使わないときは電源プラグを抜きましょう。

3 点火及び消火時の確認

- (1) 点火後は、正常に燃焼していることを確認しましょう。
- (2) 外出等の際には、必ず完全に消火していることを確認しましょう。
- (3) 電気コードやガスホースなどに傷みが無いか確認をしましょう。
- (4) ストーブを使用して、異常を感じた場合は、すぐに使用を中止し、製造元や販売元に相談しましょう。

4 点検・整備

- (1) 暖房シーズン前には、十分な点検を行い、故障している場合は、取り替えたり、販売店等に修理を依頼しましょう。
- (2) 暖房シーズン後には、説明書をよく読み、ストーブの清掃・整備を行いましょう。

5 灯油などの燃料の保管

- (1) 灯油用の容器は金属製のもの、又はポリエチレン製で安全性に係る推奨マーク若しくは認定証が貼付されているものを使用し、必ず栓をしっかりと締めて密閉しましょう。
- (2) 灯油などの燃料は火気を使う場所から遠ざけ、直射日光を避けた冷暗所に保管しましょう。
- (3) 地震時に容器が転倒したり、落下物によって容器が破損するような場所での保管はやめましょう。

問合わせ先

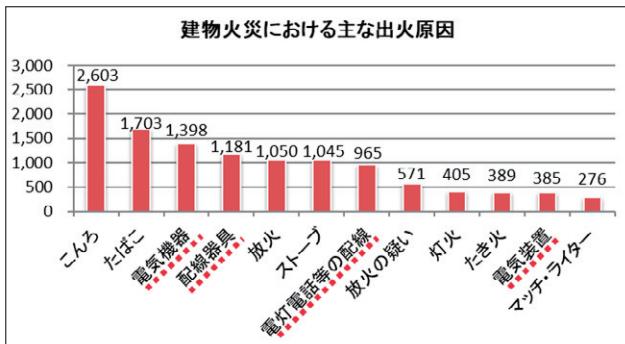
消防庁予防課 斎藤、市川
TEL: 03-5253-7523



電気器具等の安全な取扱い

予防課

電気器具等は日常生活において欠かすことのできないものですが、使用者の不注意や誤った方法で使用した場合は、火災につながるおそれがあります。



令和3年中の建物火災の件数は、19,461件となっており、そのうち電気器具等（電気機器、配線器具、電灯電話等の配線、電気装置）に起因する火災件数は3,929件で建物火災全体の約20%を占めています。

※上記件数については、概数値です。

※電気機器：電池類、家庭電化製品、OA機器等

※電気装置：モーター、コンデンサー、制御盤、燃料電池等

※電灯電話等の配線：送電線、配電線、引込線等

※配線器具：スイッチ、安全器、ソケット等

電気器具等を使用する際には、次のことに注意しましょう。

1 点検の実施

扇風機や電気ストーブなどの季節を限定して使用する電気器具等は、毎年使用する前に必ず点検をしましょう。また、使用中に普段と違った音や動きに気づいたときは、すぐに使用を止め、コンセントから差込プラグを抜いて、専門の業者に点検をしてもらいましょう。

2 正しい使用

電気ストーブで洗濯物を乾かしている時に、洗濯物が電気ストーブの上に落ちて火災につながるなど、電気器具等を本来の目的以外で使用すると、意図しない火災の原因となる恐れがあります。

使用に際しては、取扱説明書をよく読み、その機能を十分に理解し正しく使用しましょう。

3 使用しないときは・・・

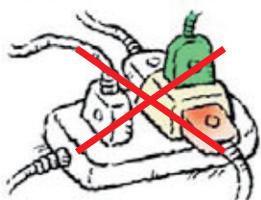
アイロンやヘアードライヤーなどは、スイッチを切り忘れたまま放置しておくと火災の原因となります。電気器具等を使用しないときは、スイッチを切るだけでなく差込プラグをコンセントから抜いておきましょう。



使用後はすぐにスイッチを切りプラグをコンセントから抜く習慣をつけましょう。

4 危険なたこ足配線

現在では、家電製品やOA機器の普及により、数多くの電気器具等が使用されるようになりました。このため、使用者の電気器具等に対しコンセントが不足し、たこ足配線になる傾向があります。



たこ足配線はやめましょう！

コンセント自体が過熱し、火災の原因となるため、コンセントの電気の許容量を超えて使用するたこ足配線は絶対にやめましょう。

5 コンセントの清掃

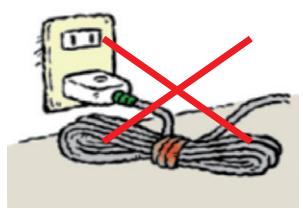
コンセントに差込プラグを長期間差し込んだ状態にしておくと、コンセントと差込プラグの間にほこり等が付着し、付着したほこり等に湿気が帯び、通電することにより火災になることがあります（トランкиング火災）。



差込プラグに付着したほこり等を定期的に取り除くようにしましょう。

6 危険な状態のコード

コードを傷んだ状態や束ねた状態、重い荷物が乗った状態で使用すると、断線して出火する可能性がありますので大変危険です。



コードを束ねて使うのはやめましょう。

【電気器具等の火災を防ぐポイント】

- 必要に応じて点検を実施する。
- 電気器具等は、正しく使用する。
- 使用しないときには、コンセントから抜く。
- 危険なたこ足配線はしない。
- 差込プラグに付着したほこり等は取り除く。
- 傷んだコードは使用しない。

問合わせ先

消防庁予防課
TEL: 03-5253-7523